

クトゥルフ神話
TRPGオリジナル

ミニシナリオ
「せんたく」

ユキ・オトコ

あらすじ

探索者（もしくは知人）は自分の親族（もしくは恋人）が突如不審な失踪を果たした。

失踪者の寝室には致死量にもなる大量の血がべっとりと付着しており、生存は絶望的だといわれている。

そのため、警察はこの件を失踪扱いではなく死亡として扱い、遺族に通達した。

親しい人間の死を受け止められないでいるまま街中を歩いていると消えたはずの人物そっくりな人影を見かける。

しかし、あとを追いかけてもなぜか見失ってしまう。

警察に行っても信じてもらえないだろうと悶々としているとネットでこの町の情報を知ることになる。

この町は『死んだ人の陽炎を見る』といううわさがあるそうだ。

しかも、その誰もが同じ『作業服』を着ていたという。

その作業服はここ最近『天国の寝心地』と名の知れた布団屋『イチゴヤ』のものだという。。。

そういえば、失踪した人間は『最近布団を新しくしたんだ』と嬉しそうに連絡していた。

探索者たちはこの不思議な現象を解明すべく現場に向かうが、その地で世にも恐ろしい夢を体験する。生きたまま全身の皮膚を剥かれて死ぬのだ。

探索者が陽炎を追いかける先にいったい何が待ち構えているのだろうか。

登場人物および場所

ルポライター

ここ数年この地域で起きる不審死を追いかけているフリーのライター。

この近辺でしか起こっていないこと、皆一様に布団を一新した後急死していることを突き止めた。

布団屋『イチゴヤ』に興味を持ち、取材を申し込んでいる。

イチゴヤの女将

イチゴヤの社長兼オーナー。

布団の卸し先が次々と不審死の被害者となっていることに戸惑っている。

若旦那以上にイチゴヤの周辺事情を理解しつつも、若旦那の成長のためにあえて黙っている。

何故か人前に入るのを嫌い若旦那以下知り合いの電話以外で直接連絡を取ることはできない。

イチゴヤの若旦那

イチゴヤの実権を握っている。辛辣な経営手腕（と人を見る目の無さ）でイチゴヤに拘るあまり若干狭量でもある。

顧客リストにない人物まで『イチゴヤの布団』を購入していたという指摘に驚いている。

課長を深く信頼しており、彼の事情を心配している。

係長を疎ましく思っているものの、彼の業績は無視できていない。

イチゴヤ部長

若旦那の辛辣を辟易している。係長と結託して若旦那を失脚させるべく策を練っている。

また、イチゴヤに対し反逆行為を行い（会社の営業車を宣伝用と称してリースしていたり、イチゴヤのブランドで余所から仕入れた粗悪品を売りさばいている）私腹を肥やしている。

イチゴヤ課長

若旦那の辛辣さはイチゴヤの経営を憂いているためだと理解している。しかし、両親の借金を抱えており、部長の営業車リースを見逃す代わりに利益の一部を口止め料として借金返済に充てている。

若旦那への贖罪としてリース先全員の名簿を保持している。

イチゴヤ係長

部長と結託して若旦那失脚をもくろむ実働部隊。粗悪品販売の中心人物でもある。若旦那にも（弱点を探るという意味で）べったり張り付いているため若旦那のお気に入りだと従業員に勘違いされている。販売実績一位。

花丸クリニック

リース先の1つ。開業医で自己資金が少ないため営業車をリースで補っている。また、クリニックのベッドは全てイチゴヤのもの。（女将はココで診察を受けている）

旅館くずきり

リース先の1つ。イチゴヤの布団をリースしてもらっている。課長の生家でもあり、両親が純粋な気持ちで応援している。ホテルの影響で経営がだいぶ傾いてはいるものの、馴染みのお客様を裏切れないと閉館には至っていない。

ホテル花月

リース先の1つ。イチゴヤの部長たちと結託し、甘い汁を吸っている。ここの倉庫によそから仕入れた偽物を保管している。くずきりに嫌がらせを繰り返しており、地域住民から蛇蝎の如く嫌われているものの、宿泊客にはわからない。

布団シーツ屋日の丸

リース先の1つ。リスト上では借りているものの、店主（80歳）は呆けているのか宣伝車を借りていることを把握していない。イチゴヤの先代女将に惚れていたらしい。駐車場には営業車がある。

枕の智

リース先の1つ。イチゴヤとセットで枕を販売している。女将が店頭に立っていたころからの古い知り合いでもある。あえてリースを受けることで女将にリース関係の不正を伝えている。

コインランドリーの店主

リース先の1つだった。最近リースを打ち切っている。一時期はクリーニング工場を運営していたようだが、不況の煽りでコインランドリーまで落ちぶれた。くずきり、枕の智、日の丸、イチゴヤとも交流がある。

皮膚をはぎ取ってコレクションにする殺人鬼がいる。

あきた皮膚は溶かして布団シーツとしてリサイクル。

呪いが込められた布団は時とともに使用者を蝕み、意志の弱い人間から餌食にしてゆく。布団は誰かの死を望んでいる、自分の中身を得るために。

地域住民だったら、気を失わせてクリニック。
外からの来訪者であれば旅館やホテルに泊めさせる。
そうすることで自然に悪夢を見るよう仕向ける。

というわけで特定の布団（花月、クリニック、くずきり）で寝ると、探索者は悪夢を見るようになる。（一日目0/1d3、二日目1/1d4、三日目1/1d5、四日目…）ちなみにベッドを替えてもシーツが追跡するため逃れられない。

殺人鬼は人の皮がしみ込んだ布団に被害者を寝かせるという条件が整わないと殺人を犯さない。そうしないと、自分のコレクションを上手に保管できないからだ。

殺人衝動とある事情によって犯人は定期的に犯行を重ねる必要がある。

殺人鬼の犯行とは別に不審死が起きているのは、溶かした皮膚がしみ込んでいる布団が肉体を乗っ取った後剥がした皮膚をコレクション部屋（廃工場）に届け、贅にされるまでの数日間街を徘徊するため。

このときイチゴヤの従業員服を着て、リース車で作品をばら撒くのは別の魔術が働いているため。

この動く肉塊を追跡しても唐突に【見えない怪物に齧られたように】消えるだけ。

魔術の元はクトゥグア。廃工場で行われてきた犯行で染まった血に引き寄せられて犯人に共振、皮膚をコレクションとして残す代わりに肉体を生贅に捧げる契約で殺人鬼を狂信者に仕立て上げた。

犯人は魔術的な契約を交わしているものの、魔術を行使できる存在ではない。
しかし、シリアルキラーの素質として

- ・精神的な探りには「真人間のようにふるまえる（心理学は成功しない）」
- ・ 一対一の状況に陥ると不意打ちの急所狙いが成功する（対抗策は幸運のみで失敗すると1D10ダメージ）上、自分が犯人だと見抜かれない。
- ・ コレクション現場（廃工場）、犯人の本性を垣間見ると神話生物に遭遇したレベルの正気度喪失（1/1 d 8）。一時的狂気の内容は【犯人の模倣】で殺人癖。

警察に連行せずに探索者たちが自力で犯人と対峙する場合戦闘となるが、数ターンののち肉塊たちが表れて殺人鬼の皮膚をはぎ殺す。（エンド）

殺人鬼を警察に連れてゆけば、継続的な生贄を取めることができなくなり殺人鬼は契約不履行となり、クトゥグアに食い殺される。（エンド）

悪夢を見始めてから4日間対策なしで犯人を捕らえられずにいると夢の跡を付けられてクトゥグアに見初められるか（SAN1 d 3/2 d 10）、布団に取り殺される（即死）。

死者の陽炎に見えたものは一時的に肉体を得た死者の皮膚だったりする。

犯人の正体はイチゴヤ係長。ランドリー店主の廃工場を使って皮膚を溶かしてシーツづくりをしている。

イチゴヤ係長（一例）

STR17DEX18INT17CON18APP12POW15SIZ16EDUI2SAN0DB1D6HP17

ナイフ（80）1D4+DB

近接系受け流し（65）

溶液をばら撒く（40）1D3人に1D4

回避（45）

シーツ屋日の丸を隠れ蓑に営業車とイチゴヤのまがい物を獲得し、自分の【作品】を忍ばせて肉塊たちに町中にばらまかせていた。

作品である人の皮にはG00の呪いがかけられており、皮膚だけをのこし肉体を乗っ取るよう仕組んでいる。大抵の人間はその過程で全身の皮膚を剥がされるような痛みに襲われるためショック死する。そして皮膚を狂信者である殺人鬼に提供している。

女将はミスリード。全身を包帯でつつみ、皮膚の一部が別人に成り果てているだけで普通の人間。呪いを浴びたもののその強靱な精神力で生き延びた。実は別の神話生物の血が流れている。ヒント【イチゴヤのロゴはヘビイチゴ】

クトゥルフ神話TRPGオリジナルミニシナリオ「せんたく」

<http://p.booklog.jp/book/85950>

著者：ユキ・オトコ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/cthulhutrpg/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/85950>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/85950>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ